

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

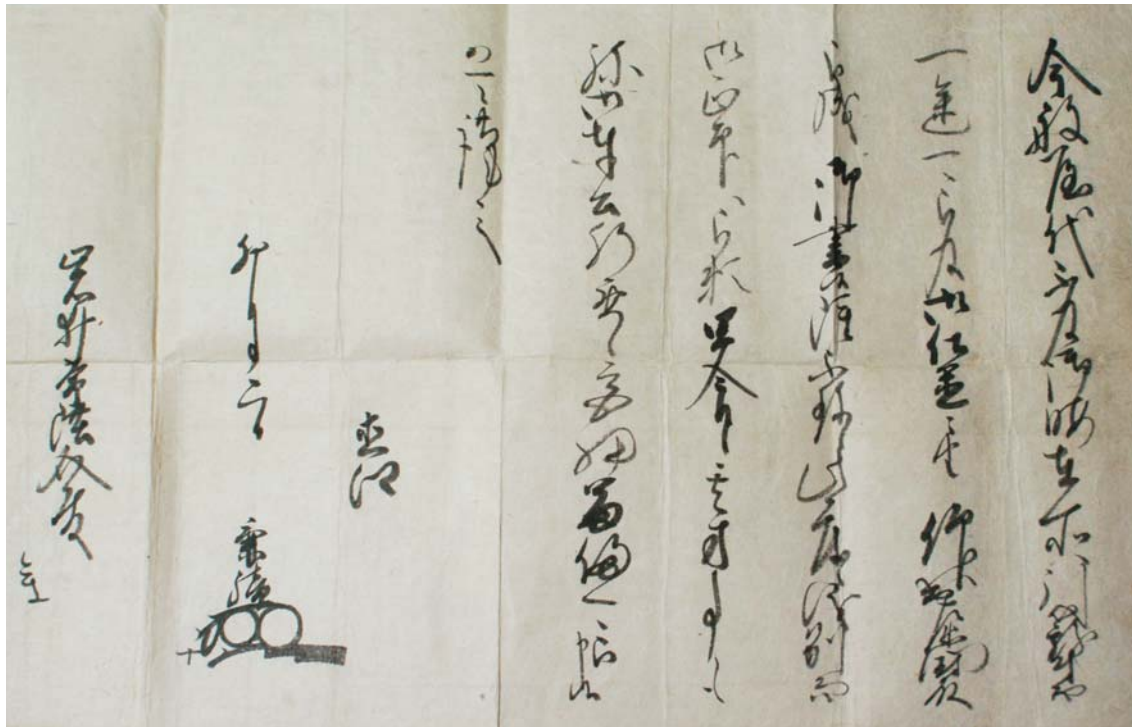
92

春の特集展

直江兼続と会津の戦国武将

福島県立博物館





(天正12年=1584) 4月2日付け
直江兼続書状 (個人蔵)

今般、屋代御暇に及ばず、在所へ引き籠るについて、一途御仕置に及ばるべきの由、左衛門尉殿に仰せ出し、御書を成され候、珍しからず候といえども、この度の儀、別して御正印へ頼み、思し食され候、その方の事も、いよいよ御奉公肝要に候、委細富備申さるべく候、恐々謹言

直江
兼続 (花押)

卯月二日
岩井常陸介殿 参

景勝・兼続が、越後(新潟県)で活躍していた頃の文書。
天正十二年四月、信濃(長野県)において、上杉方に味方していた屋代秀正という武將が、突如、敵対する徳川家康に内通するという事件が起きた。この書状からは、兼続が主君の景勝を助け、事態の対応に当たっているようすが読みとれる。
会津時代になって現われる景勝・兼続と家康との敵対関係は、この頃から、すでに始まっていた。



特集展

直江兼続と会津の戦国武將

会期 4月25日(土)~5月31日(日)

主催 福島県立博物館 財団法人福島県文化振興事業団

小説やドラマで話題になっている直江兼続は、会津の歴史ともさまざまな形で関わりがありました。新潟から会津、米沢へと領地を移した上杉氏の動向や、葦名氏・伊達氏・蒲生氏・保科(松平)氏など会津の歴代領主との関わりなどを紹介し、戦国時代・江戸時代初期の会津の歴史に、新たな光を当ててみます。

この展示は、三館(県文化センター・県立博物館・まほろん)連携企画「直江兼続とふくしま」の一環として開催されます。「天地人」関連の展示やイベントは、各地で行われていますが、とくに「会津」ならではの、という視点を大切にしながら、この時代の歴史の奥深さや面白さに触れていただきたいと思います。

■「ヨロくん」とたどる兼続ゆかりの地

上杉景勝や兼続の生涯とゆかりの地を、写真パネルにイラストをまじえて紹介してゆきます。「ヨロくん」は、三館連携企画のオリジナルキャラクターで、兼続の幼名「与六」にちなんで命名されました。



■兼続のライバルたち

景勝・兼続ばかりでなく、同時代の会津の武將に目を向けてみるのはいかがでしょう。上杉氏が越後にいた頃、会津を本拠とした武將たち(葦名盛氏・伊達政宗・蒲生氏郷など)は、境を接する隣人であり、ときには手ごわいライバルでもありました。また、米沢に移った後に起きた上杉氏の危機を、会津藩主であった保科正之が救ったこともありました。上杉氏と会津の武將をめぐるエピソードを掘り起こして紹介します。

■「はんこ」に見る武將の信条

この時代の古文書は、読むのが難しく敬遠されがちですが、文字や内容ではなく花押(サイン)や「はんこ」(印章)を見るのも、ひとつの楽しみ方です。とくに「はんこ」に使われる文字には、その人の信条とする言葉や信仰する神仏の名が刻まれていることがあります。

■観覧料 一般・大学生 六〇円（二〇円） 小中学生、高校生は無料（ ）内は二〇名以上の団体料金です。

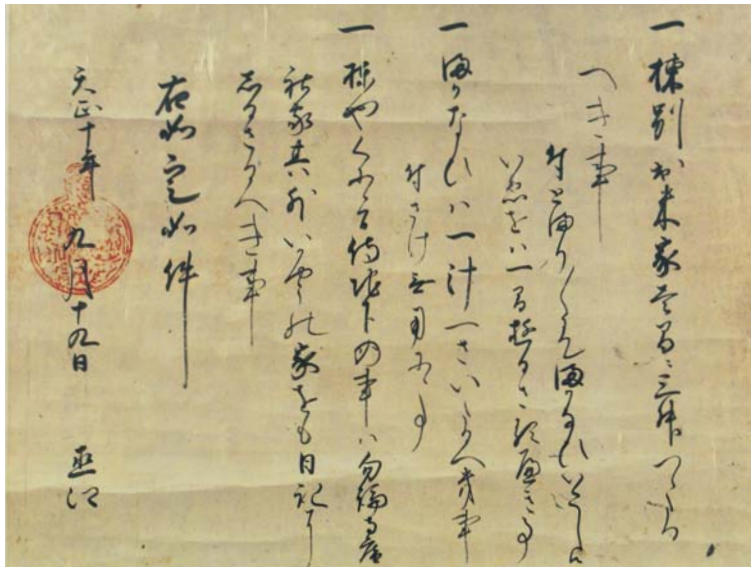


景勝の印判
印文「立願 勝軍地藏 摩利支天 飯縄明神」

天正10年(1582)9月19日付け
上杉景勝朱印状
(伊達市保原歴史文化資料館蔵)



神指城跡航空写真(会津若松市立会津図書館蔵)



一棟別出来、家老間に三升ずつたるべき事
付けたり、泊々にて、まかない致し候家をは、
一間許さるべき事
一まかないは、一汁一さいたるべき事
付けたり、さけ無用に候事
一棟役に候間、侍・地下の事は勿論、寺庵・社家、
その外いかような家をも、日記に記さるべき事
右、定めのごとく、件のごとし
天正十年（朱印）
九月十九日 直江
※読みやすくするため、漢字・カナを改めています。
家ごとに、米（三升）の供出や、軍勢への食事（一汁一菜）
の提供を命じる内容。
この年の六月、織田信長が本能寺の変で倒れ、景勝・兼統は、
信長の支配領域に対して反撃を展開した。場所は示されていないが、上杉軍が新たに侵攻した地域に対して出された命令書で
ある可能性が高い。
主人の意を受けた兼統が「直江」と署名し、景勝の朱印が捺
されている。

関連行事

ミュージアムイベント

シンポジウム 会津の景勝・兼統

5月16日(土) 13:30~16:30

講演「上杉謙信・景勝と直江兼統」

矢田俊文さん(新潟大学教授)

報告「直江兼統配下の代官群像」

渡邊智裕さん(福島県歴史資料館主任学芸員)

「神指城について」

本間宏さん(福島県歴史資料館主幹)

「会津藩家世実紀にみる上杉氏」

阿部綾子(当館学芸員)

歴史講座

古文書からさぐる直江兼統の時代(全4回)

第1回 「花押・印章からみる兼統のライバルたち」

5月9日(土) 13:30~15:00

当館学芸員 高橋充

※第2回目以後は、6月~8月の第2土曜日に実施します。

展示解説会

4月25日(土)・26日(日)・5月30日(土)・31日(日)

※各回とも13:30~14:30

当館学芸員 高橋充

兼統の「愛」の前立の兜は有名ですが、甲冑以外の資料からも、武將の人格に迫ってゆくことはできるのです。

■まぼろしの神指城
残念なことに、上杉氏が会津にいた期間は短く、残っていた資料は、本当に数少ないものです。そのような状況の中で、築城の途中で中止された巨大な神指城跡は、会津の大地に上杉氏が残した貴重な痕跡といつてよいでしょう。同時代の県内の主要な城郭の資料とともに紹介します。

(歴史担当 高橋充)

冬の特集展

「野山の宝 化石・鉱物展」

「福島県立博物館友の会化石・鉱物探検隊 10周年成果展」

◎展示解説会

平成二十二年二月八日(日)

講師 友の会化石・鉱物探検隊隊員のみなさん



第1回展示解説会の様子

参加者が続々会場に詰めかけ、あれよあれよという間に、会場は参加者でぎっしり埋めつくされました。初代隊長の大竹亮作さんが会津地方の地層や鉱物の結晶の形などの話を交えながら

解説を行いました。その後の自由観覧では、来館者と隊員とのなごやかな交流が見られました。解説会後の化石・鉱物標本のプレゼントでは、二〇余種約一五〇点を参加者全員にお渡しするという盛況ぶりでした。混乱も予想されましたが、それは全くの杞憂に終わりました。配布場所に一列に整然と並び、ひとりひとり順序良く希望の標本を選んでいました。とても印象深い光景でした。

この展覧会は、博物館と探検隊員という市民の方が協同で開催したものです。初めての体験でかつ難しい作業を根気強く熱意を持って進められ、見事盛況な展覧会を実現された西村新六隊長さんをはじめ隊員の方々に敬意を表します。ありがとうございます。次に隊員の方の感想を紹介します。

(自然担当 小澤義春)

▼今回、化石・鉱物探検隊結成一〇年の成果展が開催されました。準備の段階から隊員の方々の熱意が強く伝わりました。探検隊長の一番の心配は出品数でした。隊員の誰が何点搬入するかが予測できない。出品物搬入最終日、予想以上の点数が搬入されていました。次に展示方法が話題になりました。基本方針は、年間七回の採集活動で一〇年間に採集したものであること、採集地ごとに展示すること。しかし、各人自分の品を一品でも多く展示したいという気持ちでいっぱいです。その調整に隊長と頭を悩ませました。隊長を中心に神経を集中して公平に展示することに努めました。そして、隊員個人の採集物は特別にゾーンを作って展示する方法を採りました。

(副隊長 桑原功さん)



展示準備作業風景

▼化石・鉱物探検隊の隊員となってまだ日が浅い私、展示の手伝いということで博物館に幾度か通いました。その中で感じたのは、人の力ってすごいということ。下準備から実際に会場に展示するまで、私にとって気が遠くなるほどの雑多な作業があり、本当に期日までに仕上がるのかと思いましたが、みんなが都合をつけて集まり展示作業をこなし、結局開幕の日を余裕をもって迎えることができました。

作業の中で一番心がはずみ楽しかったのは、展示ケースの中に化石や鉱物をひとつひとつ並べていくことでした。写真や図鑑でしか見たこともないものを、手にして近々と見ることができたし、それらを隊員が採集した時の興奮を想像すると並べながら私までうれしくなっていました。

博物館での展示に加わるというめったにないことができて、本当に楽しくおもしろい体験でした。今後、博物館での企画展の見方が変わりそうです。

(隊員 二塚淳子さん)

福島県を代表する 縄文時代の遺跡

う頃の大集落跡です。和台遺跡から出土した人体文土器は、UFOの里にふさわしく、宇宙人ばい姿に見える人体を表現したユニークな土器です。



福島市上岡遺跡の土偶(イラスト)

浜通りの新地町には、新地貝塚という考古学史上有名な巨人伝説を伴う縄文後期(およそ三千五百年前)の貝塚があります。南相馬市小高区には縄文前期(およそ五千五百年前)から中期まで続く浦尻貝塚という一大貝塚群があります。この四遺跡が国指

Q…福島県内の縄文時代の遺跡で、ここだけは知っておきたい、というオススメはありますか？
A…よくぞ聞いてくれました。最近、縄文時代に ついての質問がなくて、私の出番がなかなか回ってきません。しかもグッドタイミング。
福島県を代表する縄文時代の遺跡というと、国が史跡に指定した遺跡をあげなければなりません。福島市の和台遺跡と宮畑遺跡、このふたつは今から四千年ほど前の縄文時代中期とい



福島市和台遺跡出土土器に描かれた人体文

定史跡です。

一方、下の表の通り、県が指定した史跡は縄文早期(およそ八千年前)の喜多方市常世遺跡など四遺跡です。出土した遺物がとても大切だとして重要文化財に指定されている資料は上岡遺跡の体育座りをして腕を組んだ姿の土偶をはじめ、鹿の角で作った釣針などの漁具で有名な寺脇貝塚出土品など七件あります。

これら中で、三島町荒屋敷遺跡は特に覚えておきたい遺跡です。縄文時代晩期末(およそ二千三百年前)の遺跡で、土器や石器以外に、木や植物繊維を素材にした製品や漆を塗った製品などが多数発見さ

Q&A 回答者 森幸彦 考古担当

れたとても珍しい遺跡です。縄文時代に埋没して以来、今に至るまで湿地になっていたため、これらの遺物が腐らずに残ったのです。木製の弓、石斧の柄、皿やコップ状の器、漆を絞った布、漆を塗ったかんざしや櫛、竹を編んだカゴなど縄文の匠の技を目の当たりにすることができます。

博物館では今年四月末ごろから常設展に新コーナーを設けて、この荒屋敷遺跡の資料を展示する予定です。

また、七月からは県指定考古資料展を部門展示室で開催します。乞うご期待。



三島町荒屋敷遺跡出土品
(右) 漆を塗った櫛
(左) 石斧の柄

ポイント展
「縄文の匠 荒屋敷遺跡」
4月21日(火)～3月31日(水)
総合展示室・原始

テーマ展
「収蔵・寄託 県指定考古資料展」
7月22日(水)～4月4日(日)
部門展示室・考古

*どちらも常設展料金でご覧になれます。

種別	名称	遺跡所在地
国 史跡	宮畑遺跡	福島市岡部
国 史跡	和台遺跡	福島市飯野町
国 史跡	新地貝塚附手長明神社跡	新地町小川
国 史跡	浦尻貝塚	南相馬市小高区
県 史跡	原瀬上原遺跡	二本松市原セ
県 史跡	前田遺跡	田村市船引町
県 史跡	常世原田遺跡	喜多方市常世
県 史跡	窪田遺跡	只見町大倉
県 史跡	三貫地貝塚	新地町駒が嶺
県 重要文化財	上岡遺跡出土土偶	福島市
県 重要文化財	和台遺跡出土 人体文土器 及び狩猟文土器	福島市
県 重要文化財	法正尻遺跡出土品	猪苗代町・磐梯町
県 重要文化財	常世原田遺跡出土品	喜多方市常世
県 重要文化財	石生前遺跡出土品	柳津町
県 重要文化財	荒屋敷遺跡出土品	三島町
県 重要文化財	寺脇貝塚出土品	いわき市

史跡に指定されている縄文時代の遺跡と県指定重要文化財に指定されている縄文時代の資料 (平成21年2月現在)

究極のリフォーム・打敷

小林めぐみ 美術担当

着物をほどこいて一枚の大きな布に仕立てた資料があります。小袖などの着物は、反物を裁断して縫い合わせているので、糸をほどけば再び細長い布に戻ります。それをつなぎ合わせれば、大きな布のできあがり。さてこの布は何でしょうか？

答えは「打敷」。仏具の下に敷く敷物のことです。この敷物を女性の着物を仕立て直して作ることがあるのです。古い例では、豊臣秀吉の正妻・高台院（おね）が高台寺に寄付したものが残っており、高台院自身が着ていた小袖を仕立て直したものとされています。

私が福島県で最初にこのような資料に出会ったのは、南会津町（旧・伊南村）の旧家でした。その家では独特の使い方をしていました。裏に麻地をあてて補強し、代々葬儀の際に幕として使ってきたそうです。麻地には歴代のご先祖の戒名がびっしりと墨で書きこまれていました。表の小袖であった部分は、雲型に枠を設けて八橋に扇面や雪持ち笹などの模様を刺繍してあります。雲型の設け方や刺繍の色糸や技法を見るに桃山時代の小袖のようです。この旧家の先祖は戦国時代末に越後国から移ってきたという言い伝えがありました。小袖はちょうどその頃のもので、南会津に移り住んだ先祖の奥方や娘の晴着だったのでしょうか。

次に同じような資料を見たのは、またしても奥会津。只見町の旧家でした。こちらの家では紅絹で裏

打ちしてありました。仏具の下にも敷いたのでしょうか、棺に掛けても使っていたようです。表の小袖だった部分には、朱の縮緬に刺繍や絞りで萩の花と「野」「玉」「河」「浪」「杯（つき）」「宿」の文字が表わされていました。萩と文字で「あすもこむ野路の玉川 萩こえて 色なる浪に 月やどりけり」という平安時代後期の歌人・源俊賴が詠んだ和歌の歌意を表わしています。江戸時代後期の技法とデザインですから、その当時の先祖が着ていたものを作り変えたのでしょうか。

そして最近、また打敷にめぐり会いました。福島市（旧・飯野町）の旧家のものでした。こちらも紅絹で裏打ちしてあります。表は緋色の縮緬に松竹梅と鶴亀を刺繍と染めで表わした小袖を直したものです。刺繍は色糸と金糸を併用し、所々に匹田絞りという技法も使っています。匹田絞りは、布地をほんの少ずつまんで糸をかけ、糸をかけた部分が染め残るよう



緋縮緬地松竹梅鶴亀模様打敷 福島県立博物館蔵

にしたもので、白いドットのように表現できます。また、模様の部分に糊を塗って布の白地が染め残るようにする「白上げ」の技法も用いられています。鮮やかな緋色に、緑系の色糸と金糸、そして染め残した白がくっきりと映えて、豪華な小袖だっただろうと想像できます。元の小袖は江戸時代後期のものでしょう。

この「緋縮緬地松竹梅鶴亀模様打敷」は、所蔵者のご厚意により、他の伝来品約三〇〇点とともに昨年福島県立博物館にご寄贈いただきました。旧蔵者の高橋家では、この打敷が誰の小袖であったのか、どのように使っていたのかは伝わっていませんでしたが、恐らく他の例と同様に仏事で用いられていたと思われる。

着衣を打敷という仏具にするということは、その小袖を着ていた人の信心の証にもなり、着ていた人への供養にもなります。子々孫々まで大切に使われ、あるいは寺院で護り伝えられる打敷への仕立て直しは、小袖のリフォームの究極の形かもしれません。

テーマ展

「寄贈記念

旧家の装いと彩り—高橋家資料展—

5月16日（土）～6月28日（日）

部門展示室・歴史美術

*常設料金でご覧いただけます。

「緋縮緬地松竹梅鶴亀模様打敷」は「旧家の装いと彩り—高橋家資料展—」で初公開されます。

テーマ展・ポイント展&
ミュージアムイベント

春に始まるポイント展から
ピックアップ



復元作業中の
松田学芸員。
手前に見えるのが
甕の部材。

ポイント展
保存処理完了！勿来金冠塚古墳の古墳時代甕
4月21日(火)～9月23日(水)
総合展示室・古代
*常設展料金でご覧になれます

古墳に副葬されてから約1400年、発掘調査から59年。いわき市勿来金冠塚古墳(7世紀初め)から出土した鉄甕(カブト)は、このたび保存・復元処理が完了することになりました。発掘調査の後、長らく博物館の収蔵庫に眠っていた、その姿を限定公開します。聖徳太子や蘇我馬子が活躍した時代、戦いの中で用いられたであろう鉄甕はどのような姿をしていたのか、後の時代の甕と比べてみるのも面白いかもしれません。

春のミュージアムイベントから
ピックアップ



落語から見た江戸文化
4月18日(土) 13:30～15:00
エントランスホール
出演：落語家 三遊亭兼好さん
館長 赤坂憲雄
要申込：往復はがきに住所・氏名・TELを記入の上、
県立博物館まで郵送。4月11日消印有効。
1枚につき1名様。

入場
無料

眉間にしわの寄るようなニュースばかりが
あふれる昨今ですが、たまには笑って元気を
取り戻しませんか。
鶴ヶ城を桜が染め始める季節、けんぱくミ
ュージアムイベントに落語家の三遊亭兼好さ
んが登場します。どんな噺が飛び出すか、そ
れは当日のお楽しみです。落語の後は赤坂館長と
兼好さんのトークです。落語家と民俗学者の
異色のトークはどのような落ちになるのでし
ょうか。会津若松出身で昨年真打ちに昇進し
た兼好さんの落語を通して江戸時代の文化や
日本の話芸を見直したいと思えます。
薄いタクアンも豪華な卵焼きにしてみました
落語のパワーを浴びてけんぱくで大いに笑い
じわを刻んでください。

21年度から常設展示が変わります。テーマ展はこれまでの歴史・美術テーマ展示に自然・考古フロアでの展示も加わりパワーアップ。新たに始まるポイント展では、けんぱくの選りすぐりの一品などを展示。また、常設展料金でご覧いただける大規模な展示は特集展という名称になりました。ご好評をいただいているミュージアムイベントは、今年も第3土曜日を中心に開催。気軽に楽しめる公演やみんなで真剣に考えたいシンポジウムなど、内容も充実しています。お見逃しなく!!

夏の特集展は平成二十二年七月七日(火)～九月四日(金)まで



イヌワシ

主催
うつくしま自然展実行委員会・福島県立博物館

福島県に住むわたしたちは、豊かな自然に囲まれて暮らしています。しかし、現在いろいろの環境問題を抱えて、その存続が危ぶまれています。この危機をしのぐには、自然に調和した生活の仕方が求められます。そのためには、本来の自然生態系がどのようなものか、まずは知る必要があります。
この展示会では、福島県生物同好会、福島県植物研究会、福島虫の会、会津生物同好会、日本野鳥の会福島県内支部連合会、福島県自然保護協会、会津イトヨ研究会、石川町歴史民俗資料館などの、動物・植物・鉱物が大好きな人たちが集めた、昆虫、野鳥、魚、草花、鉱物が大集合します。ふくしまの多様で貴重な生き物やその生息環境について、知識を深める機会にしたいと思えます。
(自然担当 竹谷陽二郎)

夏の展示予告
特集展
第2回うつくしま自然展
— 貴重なふくしまの自然を守る —

特集展

※常設展料金でご覧になれます

「野山の宝 化石・鉱物展」

会期 2月7日(土)～4月5日(日)

「直江兼統と会津の戦国武将」

会期 4月25日(土)～5月31日(日)

◎特集展開連行事

◎展示解説会

「野山の宝 化石・鉱物展」

講師 化石・鉱物探検隊員のみなさん

日時 4月5日(日) 13時30分～14時30分

◎展示解説会

「直江兼統と会津の戦国武将」

講師 学芸員 高橋充

日時 4月25日(土) 13時30分～14時30分

日時 4月26日(日) 13時30分～14時30分

日時 5月30日(土) 13時30分～14時30分

日時 5月31日(日) 13時30分～14時30分

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「石井研堂の足跡を訪ねて」

会期 3月14日(土)～5月10日(日)

「寄贈記念 旧家の装いと彩り」

会期 5月16日(土)～6月28日(日)

「高橋家資料展」

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「縄文の匠 荒屋敷遺跡」

会期 4月21日(火)～平成22年3月31日(水)

「保存処理完了」

勿来金冠塚古墳の古墳時代青

会期 4月21日(火)～9月23日(水)

「中尊寺経(清衡経)」

会期 4月25日(土)～6月21日(日)

「著名盛氏と伊達政宗」

―上杉・直江のライバル―

「蒲生氏郷と秀行」

―上杉・直江のライバル2―

会期 6月4日(木)～12月2日(水)

ミュージアムイベント

※は要申込

※「落語から見た江戸文化」

出演 落語家三遊亭兼好さん

館長 赤坂憲雄

日時 4月18日(土) 13時30分～15時

「直江兼統と会津の戦国武将」展記念

シンポジウム『会津の景勝・兼統』

講師 新潟大学教授 矢田俊文さんほか

日時 5月16日(土) 13時30分～16時30分

木曜の広場 『会津農書』の世界

場所 講堂

第1回「佐瀬与次右衛門と『会津農書』」

―『会津農書』誕生の歴史的背景―

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 4月2日(木) 13時30分～15時

第2回「会津農書」にみる天気と農業

―会津の気象と農業の民俗―

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 5月7日(木) 13時30分～15時

第3回「会津農書」にみる田植えと民俗

―会津地方の田の神信仰―

講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生

日時 6月4日(木) 13時30分～15時

講演・講座

※は要申込

◎歴史講座

展示室講座「石井研堂の足跡を訪ねて」

講師 学芸員 佐藤洋一

日時 4月11日(土) 13時30分～15時

古文書からさぐる直江兼統の時代1

「花押・印章からみる兼統のライバルたち」

講師 学芸員 高橋充

日時 5月9日(土) 13時30分～15時

古文書からさぐる直江兼統の時代2

「謙信死去は、葦名氏にどう伝えられたか」

講師 学芸員 高橋充

日時 6月13日(土) 13時30分～15時

◎美術講座

展示室講座「旧家の生活文化―高橋家資料に

ついて」

講師 学芸員 小林めぐみ

日時 5月23日(土) 13時30分～15時

※隣閣講座「隣閣で見る会津の美」

講師 学芸員 小林めぐみほか

日時 6月6日(土) 13時30分～15時

◎自然史講座

※「生物の進化と地球の成り立ち

―オリジナル地球史年表をつくらう―」

講師 学芸員 小澤義春

日時 6月27日(土) 13時30分～16時

実演

場所 体験学習室

※は要申込

※「須賀川の絵のぼり製作・小旗作り」

講師 伝統技術保持者 大野青峰さん

伝統技術保持者 大野久子さん

日時 5月5日(火) 13時30分～15時

「昔語り」

講師 語り部 山田登志美さん

日時 5月31日(日) 13時30分～15時

「機織り①」

講師 染織工芸家 山根正平さん

日時 6月14日(日) 13時30分～15時

やさしい展示解説

* 展示解説員による常設展総合展示の案内です。

* 5月9日(土)から毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

* 要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
* その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

5月5日(火)こどもの日

4月～6月の休館日

4月 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

5月 11日(月)・18日(月)・25日(月)

6月 1日(月)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・23日(火)・29日(月)